

千年の都・京都発！SDGsとレジリエンスの融合 しなやかに強く、持続可能な魅力あふれる都市を目指して

京都府京都市

資料 2

1. 地域特性と課題及び目標

世界でも類を見ない「多様性と奥深さを有する都市」であり、「大学のまち」、自治の伝統が息づくまちでもある。また、大都市でありながら、過疎地域等も抱え、人口減少等の問題は全国各地とも課題意識を共有する。一方、地域資源が豊かで各地域に固有の悠久の歴史や奥深い伝統と文化、多様な魅力と個性があり、地域の暮らしと人々の絆がいきいきと息づく、京都ならではの奥深く重層的なまちの魅力の本質となっている。人口減少の本格化、地球温暖化の加速、グローバル化の進展、産業構造の転換と厳しい京都市財政が課題であり、京都市の強みである「文化」を基軸に、SDGsとレジリエンスの理念を融合し、すべての施策立案の基礎に据え、「しなやかに強く、持続可能な魅力あふれる京都」を目指す。

2. 全体計画の概要

「京都市レジリエンス戦略」(<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000248522.html>) の6つの重点的取組分野に沿って、2030年のあるべき姿の実現に向けた様々な施策・取組を実施する。

3. 関連するゴール



4. 2030年のあるべき姿

『あらゆる危機を乗り越え、将来にわたって人々がいきいきと暮らせる、魅力と活気にみちた持続可能な京都のまち』

- ・ 2050年までにCO₂排出量正味ゼロの実現、2040年までにレジリエント・シティの実現を目指し、2030年までにSDGsの達成に取り組んでいく。
- ・ 2021年から公民連携プラットフォームを中心に、課題解決に必要な技術提供や投資などが実施できる仕組みを構築し、社会実験を通じてSDGsの社会実装に取り組む。

5. 自治体SDGs推進等に向けた取組



6. 他地域への展開見込（普及効果）

多様な主体が協働して社会課題解決に取り組み、好循環を生み出す場づくりは、SDGsに取り組むステークホルダーが連携する有効な手法であり、コロナ禍で厳しい財政運営に直面する基礎自治体にとっても効果的な手法である。